

RESCUE3JAPAN SRT-1技術講習会の受講報告

【レスキュー技術取得の目的】

本協議会は、近年、川を利用したイベント、川での環境教育、水辺の楽校などこれからの社会では、川に触れた活動の機会や川の活動に対する期待が高まっていく中、その安全確保などの知識や技術の取得が必要なことであると考えております。

その中で、学校教育者や市民活動団体などが川での教育や活動を行う際には、安全への配慮と救助の基礎的な技術の習得においては、まだまだ課題があるのではないかと考えております。

水の事故は、1分1秒が生死を分けます。いつも利用しているあの川でアクシデントが起きたとき、どのように対処するのか、誰が助けるのか。

川にはどんな危険が存在するのか、どんな事故が起きやすいのか、事故を未然に防ぐには何が必要なのか、不幸にも事故が発生した場合はどう対処すればいいのか。

本講習会では、川の安全確保とレスキュー技術に関して世界で唯一かつ最も権威のあるレスキュー3ジャパンが培ってきた知識と技術を広く普及させることで、川の多様な利用を安全に促進し、河川災害時の第1次救助の人材育成を目的として「まちづくり・川づくり協議会」が実施いたしました。

身につけた技術と知識はアメリカでは警察や消防が採用しているように、プロならそれぞれがそのまま職業に生かせるし、アマチュアやボランティアの指導者なら活動の場が大きく広がります。講習会最後に行う試験に合格すれば、レスキュー3公認の世界共通ライセンスが発行されます。

【訓練概要】

1. 参加者

協議会（6名）

沼倉トレーナー・石川会員・山中（貴）会員・横山会員・近藤会員・湯浅会員

協議会会員外1名

合計7名

2. 参加費 自己負担 40,500円/人

3. 講師

RESCUE3JAPAN SRT-1 INSTRUCTOR

EMP JAPAN MEDIC FIRST AID INSTRUCTOR

きたはら だい
北原 大 先生

4. と き 平成 17 年 7 月 8 日 (金) ~ 10 (日) 3 日間

5. ところ 1 日目 川の科学館 2・3 日目 春幾別川

6. タイムスケジュール

【訓練プログラム 1 日目 7 月 8 日 (金)】

8 : 1 5 集合時間 会場 川の科学館 (滝川市)
8 : 3 0 開講式・自己紹介
9 : 0 0 机上講習
1 2 : 0 0 昼 食
1 3 : 0 0 机上講習
1 9 : 0 0 終了目標

ロープノット等の進行状況にて終了時間が前後します。

個人装備のレンタルを終了後に活動本部にてお渡しします。

【訓練プログラム 2 日目 7 月 9 日 (土)】

9 : 0 0 現地集合、実技講習 (陸)
集合場所 桂沢国設スキー場センターハウス
1 2 : 3 0 昼 食
水上実技
1 7 : 3 0
1 8 : 0 0 最終日、打ち合わせ

最終プログラムに関するミーティングを参加者にして頂きますので終了時間は参加者によって決まります。

(講義実技訓練は、深夜にまで及んだ)

宿泊先	桂沢国設スキー場センターハウス・・・寝袋で寝ました。就寝は 0 : 0 0
-----	---------------------------------------

【訓練プログラム 3 日目 7 月 10 日 (日)】

8 : 0 0 実技講習 (川)
1 1 : 0 0 昼 食
1 2 : 0 0 実技講習 (川)

17:00 ペーパーテスト

18:00 認定式

19:00 現地解散（講義訓練は深夜まで及んだ。解散時間は22:30）



座学（川の科学館 1日目）



実技（幾春別川 2～3日目 写真取る余裕すらありません・・・休憩の写真のみ）





7. 合否の結果

実技の追試を乗り越えた結果、全員そろって合格

【現在の協議会のレスキュー3ジャパンの有資格者】

アウェアネス・レベル（半日コース）

座学みのコース（レスキューの基礎的な知識を学ぶ）

後藤・上田・篠島・木村

ファースト・レスポnder レベル（座学・実技 1日コース）

岸やボートに基点にしたレスキューを遂行する（スローロープ・ボートなど）

安達・齋藤・平手・新谷・森下・堀下・岸・千葉・二本柳・二本柳（麻）

・山中（有）・加藤

テクニシャン（座学・実技 3日コース）

川の中の高いレベルのレスキューを遂行する（ロープ・スイムレスキューなど）

沼倉・石川・山中（貴）・横山・近藤・湯浅

【まとめ】

レスキュー訓練は万が一に備えてのものであり、レスキュー講習で学んだ事前の危険予見・危険回避こそが活動を行う上で大切なことでもあります。

また、資格を取られた方は、日々の練習と活動による経験を積んでこそ、資格のレベルにあったレスキュー活動ができるものであり、資格があるからレスキューができるということではないことをもう一度思い出していただき、受講したときの初心に帰って日々の練習と経験を積んで、本協議会の活動に活かされますようご期待しております。